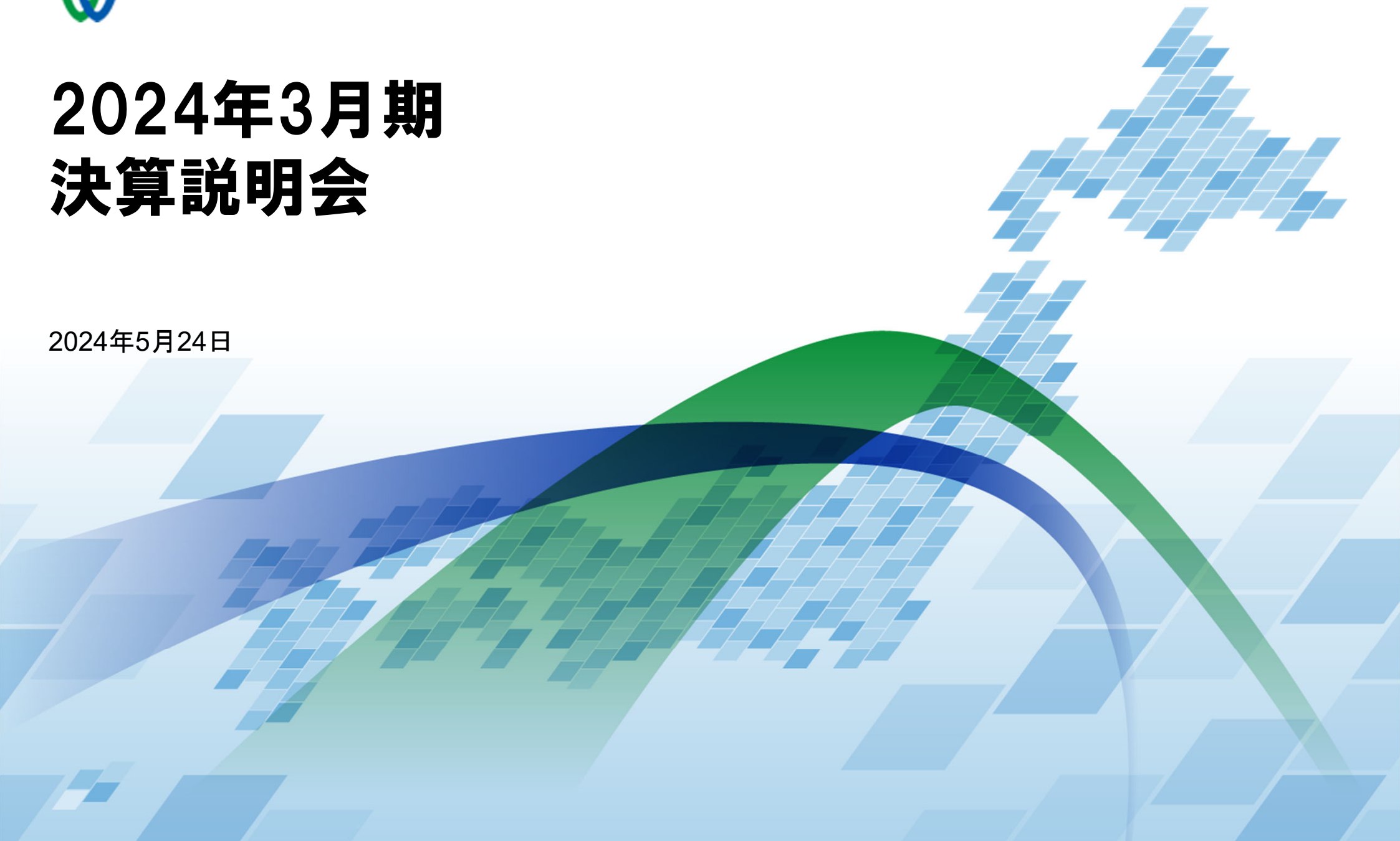


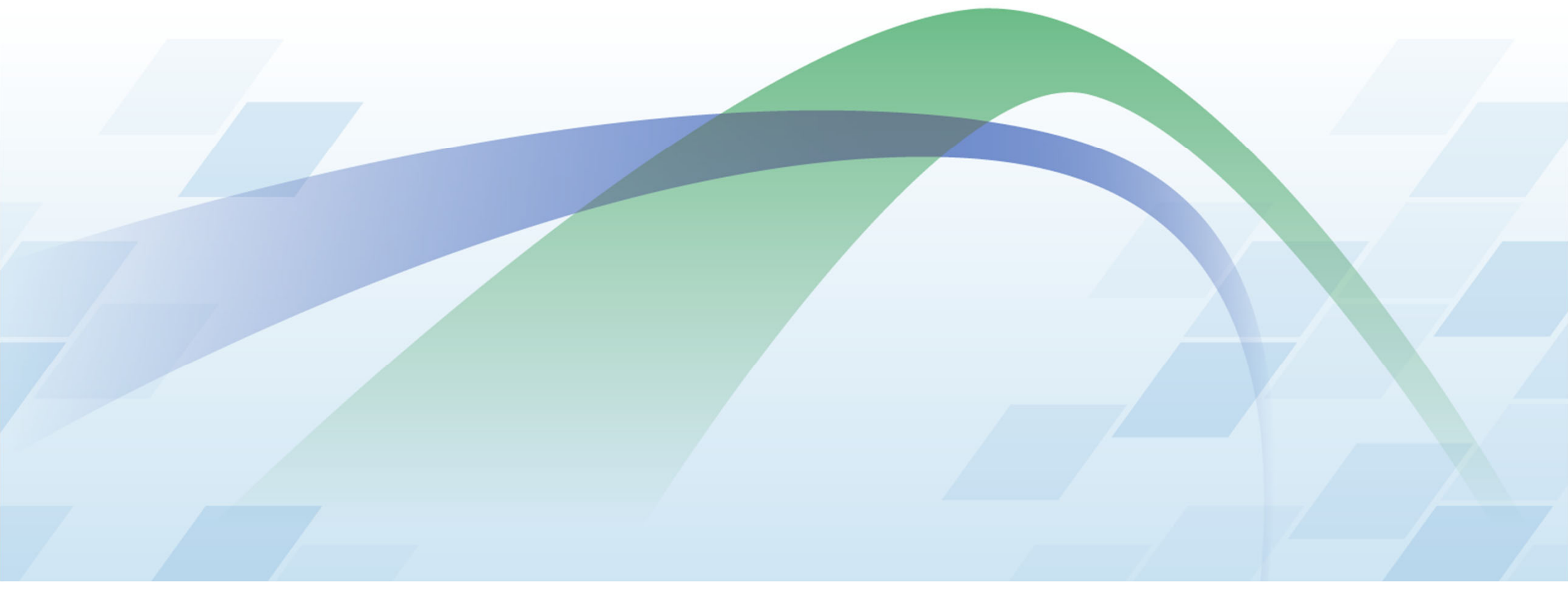
# 2024年3月期 決算説明会

2024年5月24日



I . 2024年3月期決算	P.2
II . 2025年3月期業績予想	P.16
III . 中期経営計画の進捗	P.19
Appendix 1 - 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた 対応について	P.38
Appendix 2 - 会社概要	P.45

# I .2024年3月期決算



- ◆ 景気は緩やかな回復が期待されているものの、世界的な金融引き締め等に伴う影響や中国経済の先行き懸念、物価上昇、中東情勢など注意が必要な状況
- ◆ 国内公共投資の予算は底堅く推移しており、道路橋・鉄道橋等の橋梁事業、大規模更新・保全関連について、一定以上の発注量が確保された
- ◆ 建設業界においても持続的成長に向けた人材確保が喫緊の課題であり、当社グループとしてもその対策の一環として、従業員の賃上げを実施。

# 2024年3月期トピックス

- ◆ 当社の受注高は、高速道路の大規模更新や大型案件の受注により、844億86百万円と前年比26.8%増、過去最高となる
- ◆ 売上高は、大規模更新工事や大型案件等の工事が順調に進捗し、693億65百万円と前年比15.1%増、過去最高となる
- ◆ 営業利益と経常利益についても、採算性向上や経費削減等により業績予想より改善
- ◆ 投資家面談、工場見学会開催、英文サイト開設、株主総会招集通知や決算短信をはじめとした適時開示資料などの英文開示などにより、株主・投資家との対話を進める

## 2024年3月期決算サマリー

手持ち工事の順調な進捗、生産効率化・工事生産性向上の取組み、業務効率化により、  
受注、売上、利益の全てで前年度を上回る結果

(百万円)

	22/3期	23/3期		24/3期	
	実績	実績	前年同期比	実績	前年同期比
売上高	58,002	60,279	3.9%	69,365	15.1%
営業利益	5,810	5,127	▲11.8%	7,904	54.2%
経常利益	5,992	5,373	▲10.3%	7,908	47.2%
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,406	3,077	▲9.7%	4,354	41.5%
受注高	63,974	66,650	4.2%	84,486	26.8%
受注残高	94,286	100,658	6.8%	115,780	15.0%

## 新設関連工事

**R3圏央道利根川橋上部工事**  
国土交通省関東地方整備局  
クレーン台船を用いた張り出し架設



**新名神高速道路  
城陽第一高架橋(鋼上部工)工事**  
西日本高速道路株式会社  
手延べ機を用いた送り出し架設



**川崎港臨港道路東扇島水江町線  
主橋梁部上部工事**  
国土交通省関東地方整備局  
大型フローティングクレーンを用いた  
大ブロッカー括架設



## 大規模更新・保全関連工事

新名神高速道路杉川橋(鋼上部工)  
設計・工事  
西日本高速道路株式会社



佐世保高架橋拡幅工事  
西日本高速道路株式会社



喜連瓜破橋大規模更新工事  
阪神高速道路株式会社





## 鉄道関連、大空間・特殊建築物、沿岸構造物工事



品川駅構内環状第4号線交差部新設他  
鹿島建設株式会社

新香川県立体育館鉄骨工事  
株式会社大林組他JV



ボートレース江戸川  
浮消波堤製作工事  
五洋建設株式会社

# 主要な受注工事の概要

## 当社グループの主要な受注工事

綾部宮嶋線防災・安全交付金工事  
工事規模:18.5億円  
京都府



新脇谷橋完成予想図

県道小鶴原女木線災害復旧  
深水橋上部工事  
工事規模:30億円  
国土交通省九州地方整備局



深水橋パース図

引用元: 国土交通省 九州地方整備局  
八代復興事務所  
球磨川橋梁復旧技術検討会  
第6回技術検討会



高速6号向島線接続地区上部・橋脚・基礎工事  
(首都高速道路日本橋地下化事業)  
工事規模:442億円 / 首都高速道路株式会社



新名神高速道路 杉川橋(鋼上部工)建設工事  
工事規模:104億円 / 西日本高速道路株式会社

## セグメント別実績

宮地エンジニアリング、エム・エムブリッジともに前年同期比大きく増収増益

(百万円)

	22/3期	23/3期		24/3期	
	実績	実績	前年同期比	実績	前年同期比
売上高	58,002	60,279	3.9%	69,365	15.1%
宮地エンジニアリング	33,294	34,455	3.5%	39,729	15.3%
エム・エムブリッジ	24,821	25,927	4.5%	29,639	14.3%
その他	2	3	19.2%	5	50.8%
営業利益	5,810	5,127	▲11.8%	7,904	54.2%
宮地エンジニアリング	3,263	3,097	▲5.1%	4,452	43.8%
エム・エムブリッジ	2,543	2,018	▲20.6%	3,426	69.7%
その他	694	1,464	110.8%	3,774	157.7%
受注高	63,974	66,650	4.2%	84,486	26.8%
宮地エンジニアリング	38,986	38,721	▲0.7%	45,063	16.4%
エム・エムブリッジ	24,984	27,925	11.8%	39,417	41.2%
その他	2	3	19.2%	5	50.8%
受注残高	94,286	100,658	6.8%	115,780	15.0%
宮地エンジニアリング	52,996	57,262	8.1%	62,596	9.3%
エム・エムブリッジ	41,371	43,369	4.8%	53,148	22.5%
その他	—	—	—	—	—

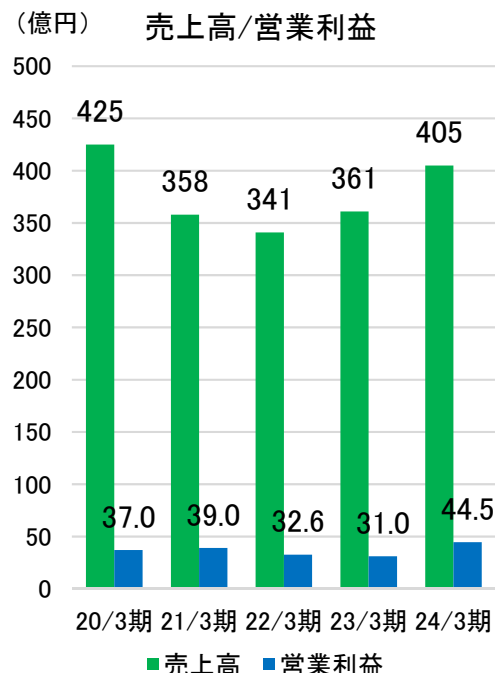
## セグメント別実績(2)

## 宮地エンジニアリング

受注高につきましては、技術的難易度の高い西日本高速の第二京阪道路 門真高架橋東(鋼上部工)建設工事や、沖縄総合事務局の令和5年度小禄道路橋梁上部工(P40~P45)、下部工(P40~P44)などの受注により、460億26百万円(前年同期比17.2%増)となりました。

売上高につきましても、西日本高速の吹田JCT~中国池田IC間橋梁更新工事、東日本高速の首都圏中央連絡自動車道 五霞高架橋(鋼上部工)工事などの工事が概ね順調に進捗し、405億81百万円(同12.4%増)となりました

今後も引き続きさらなる受注・売上の拡大と収益向上に努めます



## 今後の取組み

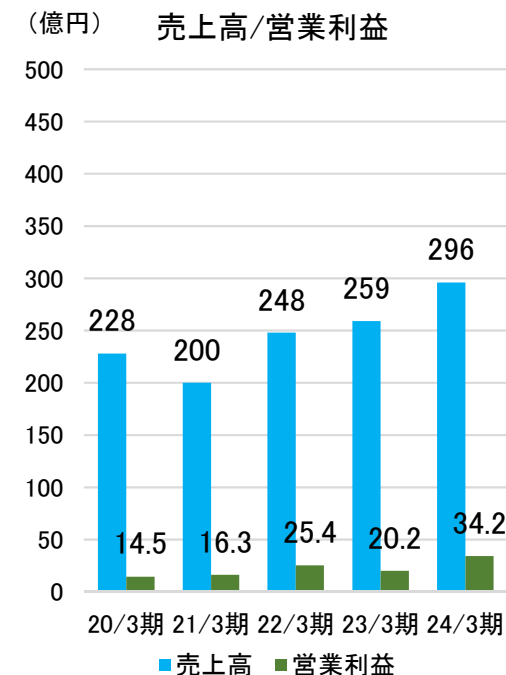
## 持てる経営資源を適切に配分した最適経営の実現

国内鋼橋市場の変化・動向を踏まえ、持てる経営資源を新設関連工事、大規模更新・保全関連工事、鉄道関連工事、大空間・特殊建築物工事に適切に配分した最適経営を行うとともに、技術開発やDX(デジタルトランスフォーメーション)に基づく生産性向上ならびに人材の確保・育成、女性活躍を推進し、働き方改革を進め、中期経営計画の達成に努めます

## エム・エムブリッジ

受注につきましては、自社の強みを発揮できる高難度工事の比重を高め、西日本高速の杣川橋(鋼上部工)工事や首都高速の(日本橋工区)6号向島線接続地区上部・橋脚・基礎工事などの受注により、過去最高値であった前年度を上回る394億17百万円(前年同期比41.2%増)となりました

売上につきましても、西日本高速の吹田JCT~中国池田IC間橋梁更新工事、佐世保高架橋(拡幅)工事などの大型工事が順調に進捗し、前年度の過去最高値を上回る296億39百万円(同14.3%増)となりました  
引き続き過去最高の受注・売上を目指すと同時に、さらなる収益改善に努めます



## 今後の取組み

## 長大橋、大規模・高度技術工事への取組み拡大

当事業年度は、前年度に取組んだ「人材確保・育成」、「生産性向上」、「事業の多柱化」の3つの重点施策をさらに発展・深化させ、各部門にて取組むべき具体的な重点施策を改めて立案して確実に実行に移し、更なる成果の刈取りに繋げてまいります

建設業界における賃上げや週休二日制導入などの働き方改革にも積極的に取り組めます

## 事業別実績(1)

受注は新設、大規模更新・保全で大きく伸長  
新設関連売上高は引き続き大きく増加

(百万円)

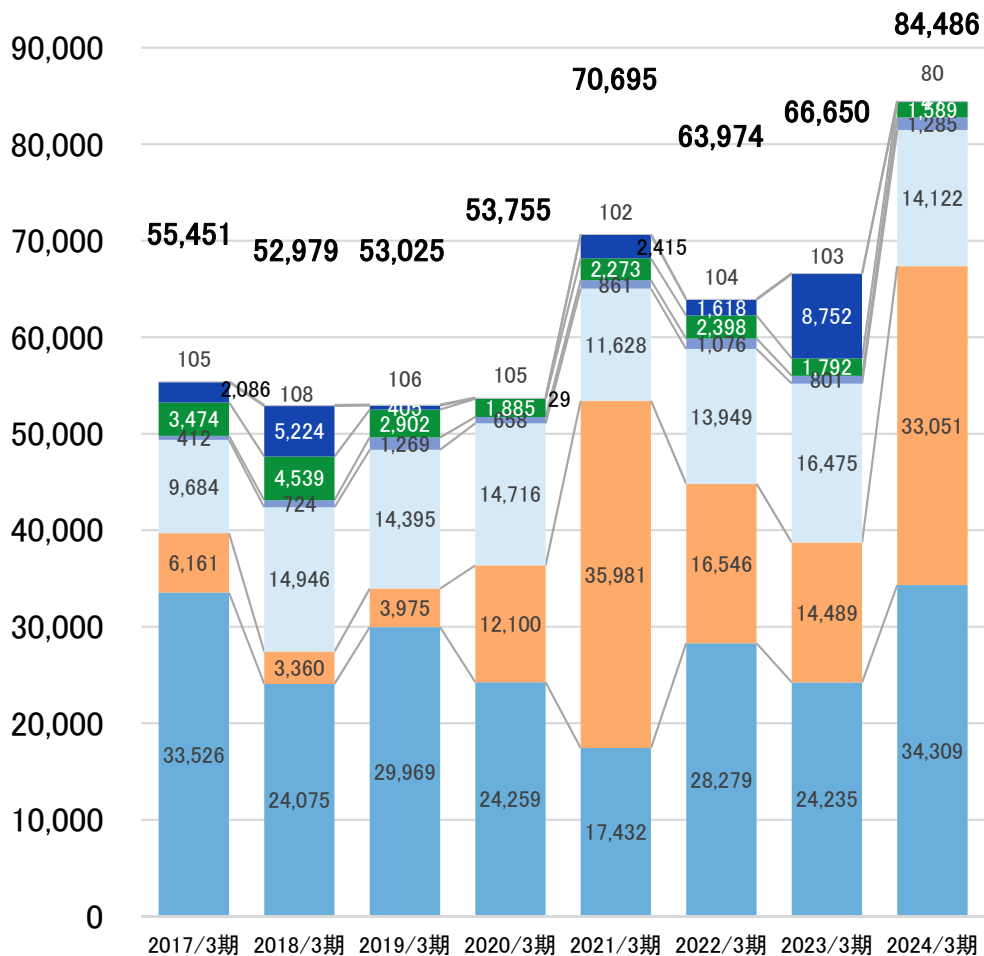
	受注高					売上高				
	22/3期	23/3期		24/3期		22/3期	23/3期		24/3期	
	実績	実績	前年比	実績	前年比	実績	実績	前年比	実績	前年比
合計	63,974	66,650	4.2%	84,486	26.8%	58,002	60,279	3.9%	69,365	15.1%
新設	28,279	24,235	▲14.3%	34,309	41.6%	13,811	20,322	47.1%	27,192	33.8%
大規模更新・保全	16,546	14,489	▲12.4%	33,051	119.8%	23,320	21,837	▲6.4%	19,742	▲9.6%
鉄道	13,949	16,475	18.1%	14,122	▲14.3%	15,076	12,876	▲14.6%	13,241	2.8%
FRP・その他	1,076	801	▲25.6%	1,285	60.4%	986	977	▲0.9%	958	▲1.9%
大空間・特殊建築物	2,398	1,792	▲25.3%	1,589	▲11.3%	1,903	1,744	▲8.4%	1,339	▲23.2%
沿岸構造物	1,618	8,752	440.8%	47	▲99.5%	2,798	2,416	▲13.7%	6,809	181.8%
太陽光発電	104	103	▲1.3%	80	▲22.1%	104	103	▲1.3%	80	▲22.1%

- ◆ 新設関連で第二京阪道路 門真高架橋東(鋼上部工)建設工事など34,309百万円を受注
- ◆ 大規模更新・保全関連で高速6号向島線接続地区上部・橋脚・基礎工事など33,051百万円を受注
- ◆ 新設関連で首都圏中央連絡自動車道 五霞高架橋(鋼上部工)工事などにより27,192百万円を売上
- ◆ 大規模更新・保全関連で吹田JCT～池田IC間橋梁更新などにより19,742百万円を売上

# 事業別実績(2)

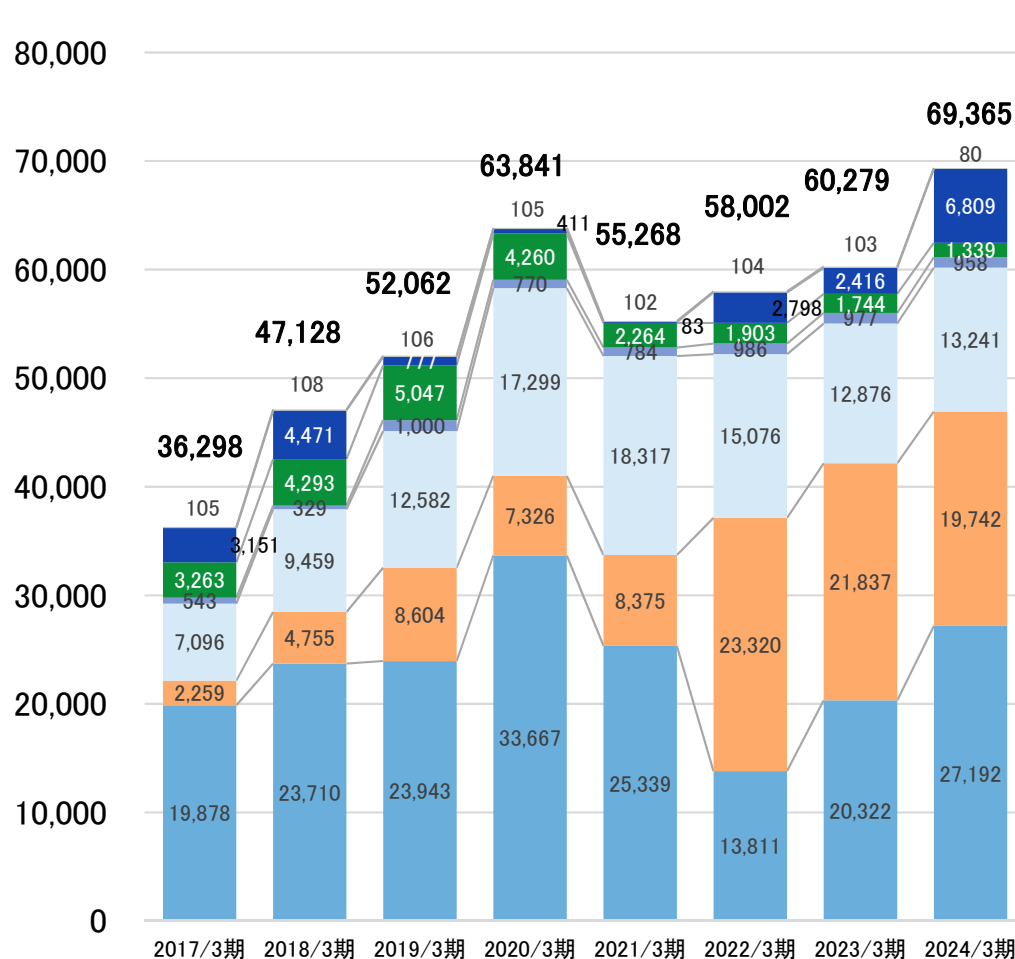
## 受注高推移

(百万円)



## 売上高推移

(百万円)



■ 新設 ■ 大規模更新・保全 ■ 鉄道 ■ FRP・その他 ■ 大空間・特殊建築物 ■ 沿岸構造物 ■ 太陽光発電

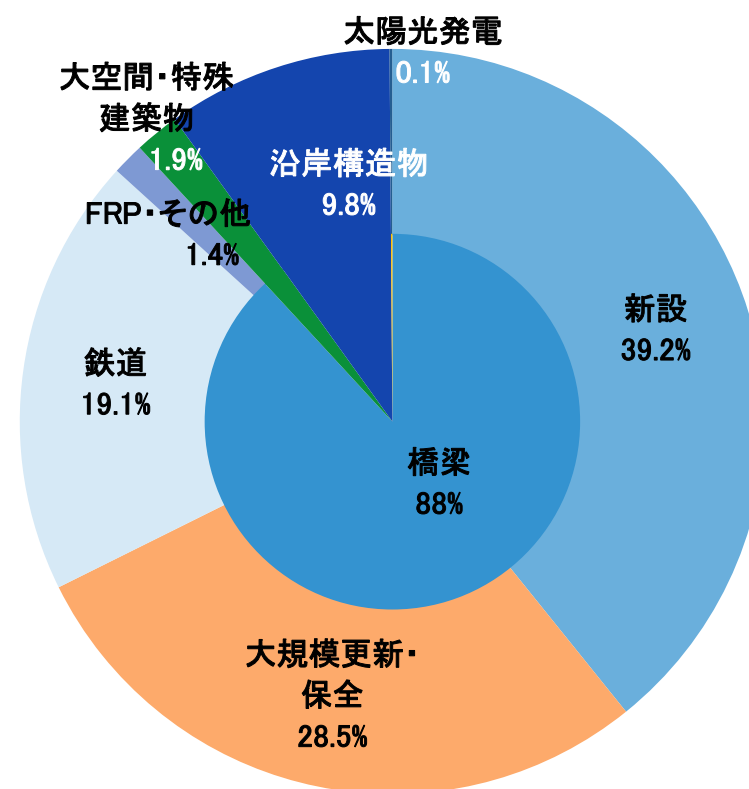
# 事業別実績(3)

## 業界トップクラスの橋梁総合エンジニアリング企業

長大橋含む鋼製橋梁、タワー・ドームなど大空間構造物、沿岸構造物の設計・製作・建設計画・施工を一貫して手掛ける

橋梁	新設	大規模プロジェクトを含む新設橋梁の設計・製作・施工計画・現場施工
	大規模更新・保全	高速道路の構造物を最新の技術を用いて建設当初と同等またはそれ以上の性能や機能を回復させる大規模更新工事と、既設橋梁の補修、拡幅、災害復旧、撤去、架け替え工事などの設計・製作・施工計画・現場施工
	鉄道	高い技術力を必要とする鉄道の渡河橋や跨道橋および跨線橋の設計・製作・施工計画・現場施工
	FRP・その他	FRPを用いた検査路や化粧板などの開発製品や特許技術などに関する販売、業務委託
大空間・特殊建築物	東京スカイツリーなどの高層タワーやエスコンフィールド北海道などのドームの施工計画・現場施工	
沿岸構造物	特殊な設計技術力を必要とする鋼製の沈埋函、ケーソン、ジャケット、浮消波堤などの設計・製作	
太陽光発電	旧工場跡地を活用した太陽光発電事業	

2024年3月期 事業別売上実績比率



## 貸借対照表、キャッシュ・フロー

自己資本比率は23/3末の56.3%から53.5%とやや低下、純資産は大きく増加

## 主な貸借対照表の項目

(百万円)

	22/3末	23/3末	24/3末
資産合計	61,815	63,051	74,146
流動資産	42,056	43,185	51,316
固定資産	19,759	19,866	22,829
有形固定資産	12,756	12,968	13,911
無形固定資産	336	372	415
投資その他の資産	6,666	6,524	8,502
負債合計	22,724	21,483	27,532
流動負債	18,150	17,395	22,851
固定負債	4,574	4,087	4,680
純資産合計	39,091	41,568	46,614
株主資本	28,097	29,812	32,464
その他の包括利益累計額	5,282	5,695	7,230
非支配株主持分	5,710	6,059	6,918

当期純利益計上により営業CFは大きくプラス、有形固定資産取得および配当に充当

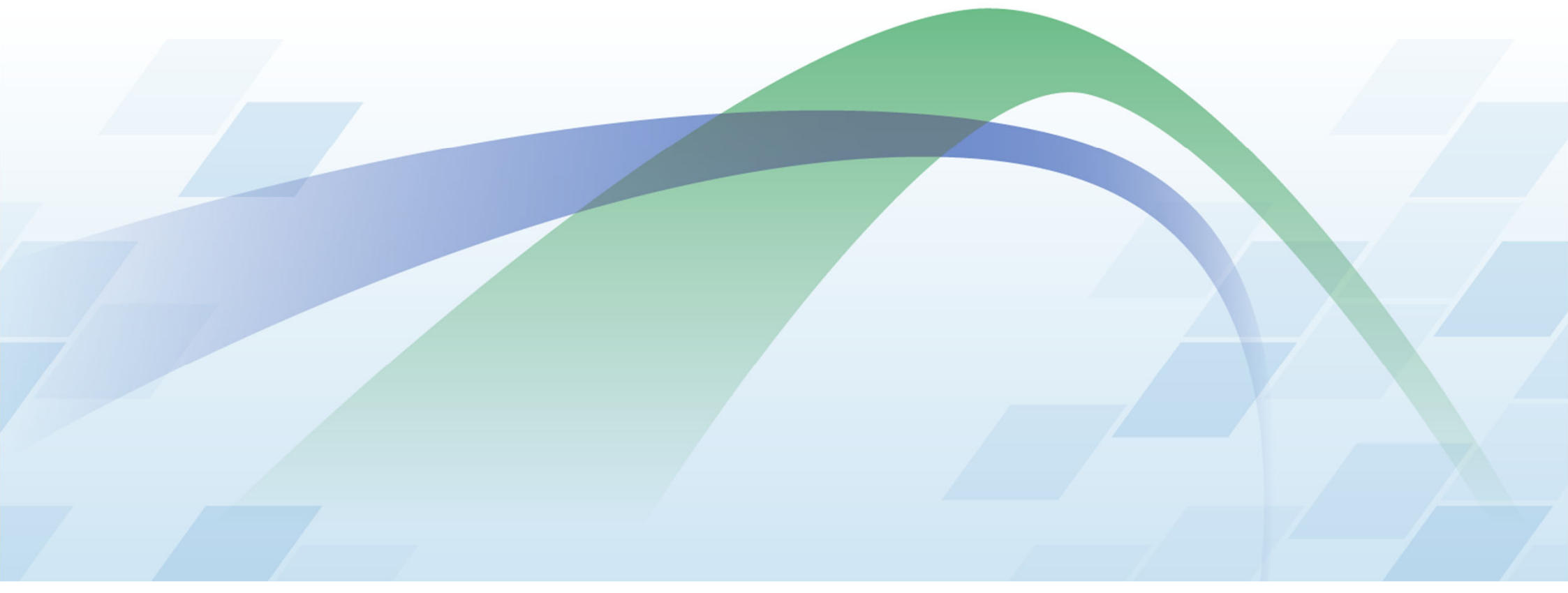
## 主なキャッシュ・フロー計算書の項目

(百万円)

	22/3期	23/3期	24/3期
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,915	495	8,841
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,185	▲711	▲1,539
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲3,267	▲2,147	▲1,802
現金及び現金同等物の増減額(▲は減少)	7,462	▲2,363	5,499
現金及び現金同等物の期末残高	15,979	13,615	19,115



## Ⅱ.2025年3月期業績予想



## 2025年3月期トピックス

- ◆ 海外景気の下振れがわが国の景気を下押しするリスク、物価上昇や中東情勢をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要あり
- ◆ そのような状況下においても、橋梁事業については、2024年度の発注見通しとして新設関連で2,500億円、大規模更新・保全関連で2,800億円(いずれも当社推定値)と前年度と同程度の発注量が見込まれている
- ◆ 事業規模約7兆円の大規模更新工事の継続的な発注や、高難度ビッグプロジェクトの発注も見込まれており、中期的に当社グループが飛躍する事業環境
- ◆ グループとしての経営管理体制強化して収益基盤を強固なものとし、経営資源を適切に配分した最適経営を行うとともに、技術開発やDX活用による生産性向上、人材確保・育成などにより、中期経営計画の達成に努める

## 2025年3月期業績予想

工事の順調な進捗、採算性向上・経費削減により、売上高・営業利益・経常利益は期首予想より増加見込み  
受注高は、過去最高となった前年度並みを目指して鋭意活動中

(百万円)

	23/3期	24/3期		25/3期	
	実績	実績	前年比	業績予想	前年比
売上高	60,279	69,365	15.1%	73,000	5.2%
営業利益	5,127	7,904	54.2%	9,500	20.2%
経常利益	5,373	7,908	47.2%	9,600	21.4%
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,077	4,354	41.5%	4,400	1.0%
1株当たり年間 配当金(円)*1	70	192	—	195	—
自己資本利益率 (ROE)	8.9%	11.6%	—	10.8%	—
受注高	66,650	84,486	26.8%	84,000	▲0.6%
受注残高	100,658	115,780	15.0%	126,780	9.5%

\*1 2023年10月1日に普通株式1株につき2株の割合をもって分割、1株当たり年間配当金は分割考慮後で表示

## Ⅲ.中期経営計画の進捗



# 目指す姿と事業戦略

## 2026年に 目指す姿

ファブ(工場製作)とエンジ(現場施工)を両輪とし、豊富な実績に基づく高度な技量を備えた日本を代表する  
蔦集団を中心とした協力会社を傘下に持つ業界屈指の総合エンジニアリング会社として、グループの連携を  
強化すると共に、経営資源の質・量の充実を図り、競争力を強化し、豊かな社会の構築に貢献する大規模工  
事への参画により売上と利益を更に拡大することで、持続的成長による企業価値の向上を図る

## 主要戦略

- 1)新設橋梁ビッグプロジェクトへの参画
- 2)高速道路大規模更新工事の取り込み拡大
- 3)民間の高難度工事への対応
- 4)技術開発の強化
- 5)事業拡大・効率化に向けた設備投資
- 6)アライアンス強化
- 7)開発商品の拡販
- 8)ESGへの取組み

## 中期経営計画 達成目標の見直し

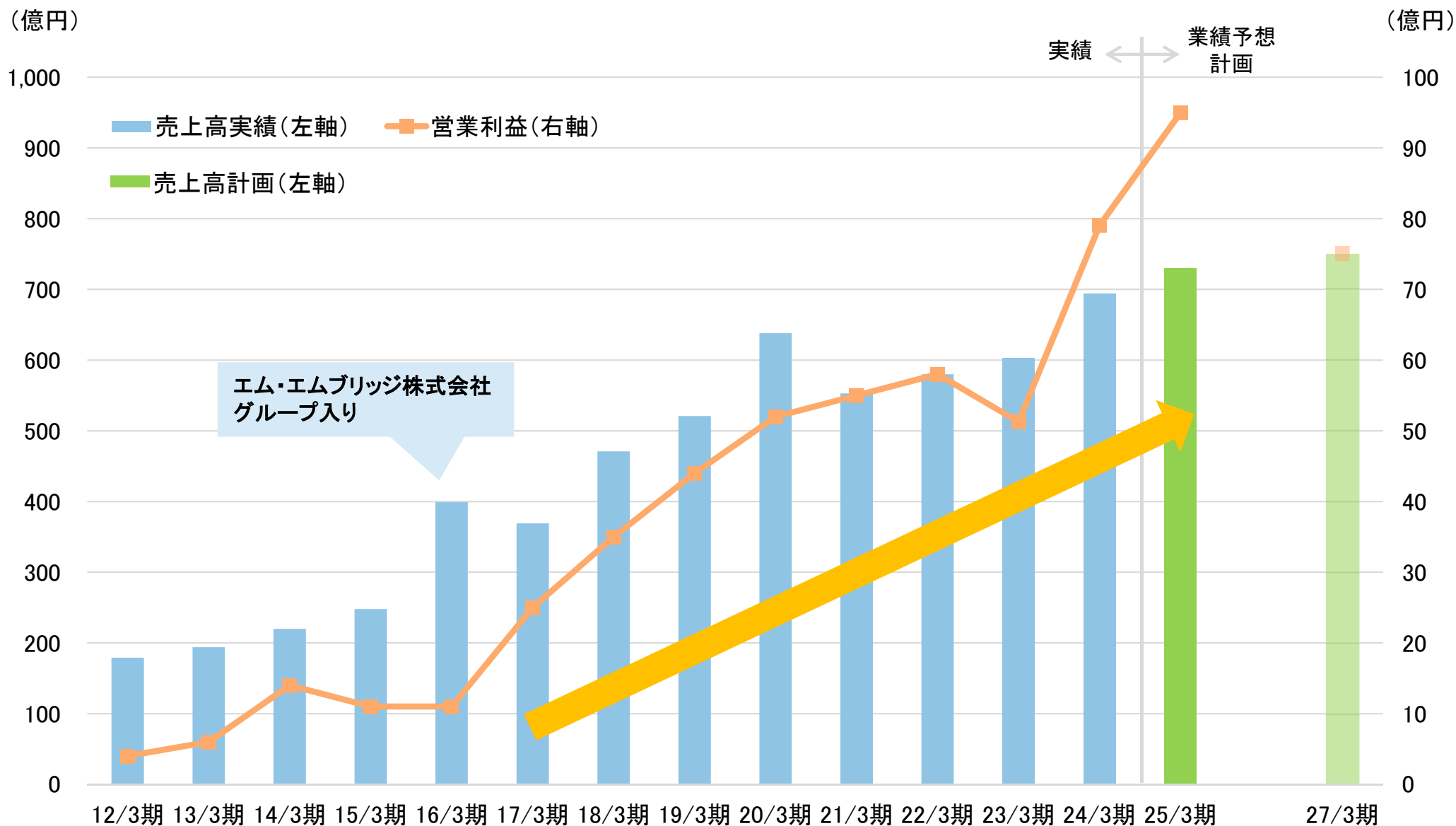
- ◆ 中期経営計画策定時(2021年度)に想定した売上達成目標に対して、2022年度・2023年度は超過達成し、2024年度も目標を大幅に超過する見通し
- ◆ 一方、中期経営計画策定時に2025年度からの製作を見込んでいた高難度ビッグプロジェクトの発注が、想定よりも2年以上遅れる見通し
- ◆ 2024年度発注予定案件において、国土交通省の新設関連工事の発注量が想定外に減少している状況
- ◆ 上記の状況を鑑み、今中期経営計画期間における2026年3月期及び2027年3月期の事業計画および目標値の見直しを行い、11月の決算説明会時に発表を予定

# 定量目標の進捗

(百万円)

	22/3期	23/3期	24/3期		25/3期		27/3期
	実績	実績	業績予想	実績	中計目標	業績予想	中計目標
売上高	58,002	60,279	71,000	69,365	70,000	73,000	75,000
営業利益	5,810	5,128	7,100	7,904	7,000	9,500	7,500
経常利益	5,992	5,374	7,000	7,908	7,000	9,600	7,500
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,406	3,077	3,600	4,354	3,800	4,400	4,000
自己資本比率	54.0%	56.3%	57.0%	53.5%		55%	
自己資本利益率(ROE)	10.7%	8.9%	9.9%	11.6%		10%	
総資本利益率(ROA)	9.8%	8.6%	10.0%	11.5%		10%	

# 売上高・営業利益の実績および計画





# 主要戦略の状況

主要戦略	進捗評価	取組状況	
1)新設橋梁ビッグプロジェクトへの参画	○	大阪湾岸道路西伸部新設橋梁ビッグプロジェクトの必注に向けて、技術提案等検討対応中	<p>質・量共に 経営資源を揃える 当社の強みを 最大限に発揮出来る プロジェクト</p>
2)高速道路大規模更新工事の取り込み拡大	◎	日本橋地下化事業の一環である高速6号向島線接続地区上部・橋脚・基礎工事など、大物案件を受注引き続き複数の案件についても優先交渉権を獲得したり受注するべく技術提案等検討対応中	
3)民間の高難度工事への対応	○	高い技術力が評価されている民間向け高難度工事（鉄道、大空間・特殊建築物、沿岸構造物関連工事）についても、複数の具体的案件に鋭意取組継続中	
4)技術開発の強化	○	ICT、DX関連会社や各種メーカーとの共同開発を進め、業務改善を推進中	
5)事業拡大・効率化に向けた設備投資	○	栗橋機材センターの大規模改修を進めるとともに、今中期経営計画期間中の兵庫機材センター移転・拡充計画と千葉工場新事務所棟建築計画を推進中	
6)アライアンス強化	○	ゼネコンとの異工種JVにより複数の大規模更新・保全関連工事を受注するとともに、引き続き複数の案件で異工種JVによる応札対応中	
7)開発商品の拡販	○	FRP検査路などの開発商品について、事業計画に基づき順調に拡販対応中	
8)ESGへの取組み	○	統合報告書2024(9月発刊予定)においてKPIを公表予定 2021年度実績よりGHG排出量についてScope1・2・3を公表	

# 施策取組みの状況

## 優先交渉権を獲得して設計対応中の大規模工事

### 道央自動車道 北郷地区橋梁リニューアル工事 実施設計

発注者：東日本高速道路株式会社 北海道支社

契約業者：大成建設・岩田地崎建設・伊藤組土建・極東興和・エム・エムブリッジ

道央自動車道 北郷地区リニューアル工事特定建設工事共同企業体



### 東北自動車道

### 仙台宮城インターチェンジDランプ橋工事 実施設計

発注者：東日本高速道路株式会社 東北支社

契約業者：エム・エムブリッジ株式会社・株式会社安藤・間

東北自動車道 仙台宮城インターチェンジDランプ橋工事

特定建設工事共同企業体



### 新名神高速道路 新治橋他1橋(鋼上部工) 設計・工事(設計業務)

発注者：西日本高速道路株式会社 関西支社

契約業者：エム・エムブリッジ



### 市道高速1号他新洲崎工区改築事業(実施設計)

発注者：名古屋高速道路公社

契約業者：大林・大豊・矢作・川田・MMB・宮地・瀧上・駒ハル

市道高速1号他新洲崎工区改築事業異工種共同企業体



# 施策取組みの状況

## ゼネコン等との異工種JVにより受注した 2023年度に竣工又は施工中の大規模更新・保全関連工事



港川付近鋼製橋脚等大規模更新工事  
MMB・森組JV  
阪神高速道路株式会社



喜連瓜破大規模更新工事  
大成・富士ビーエス・MMB異工種JV  
阪神高速道路株式会社



上信越自動車道 蓬平工事  
株式会社フジタ・エム・エムブリッジ株式会社JV  
東日本高速道路株式会社



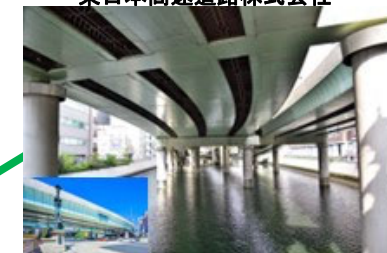
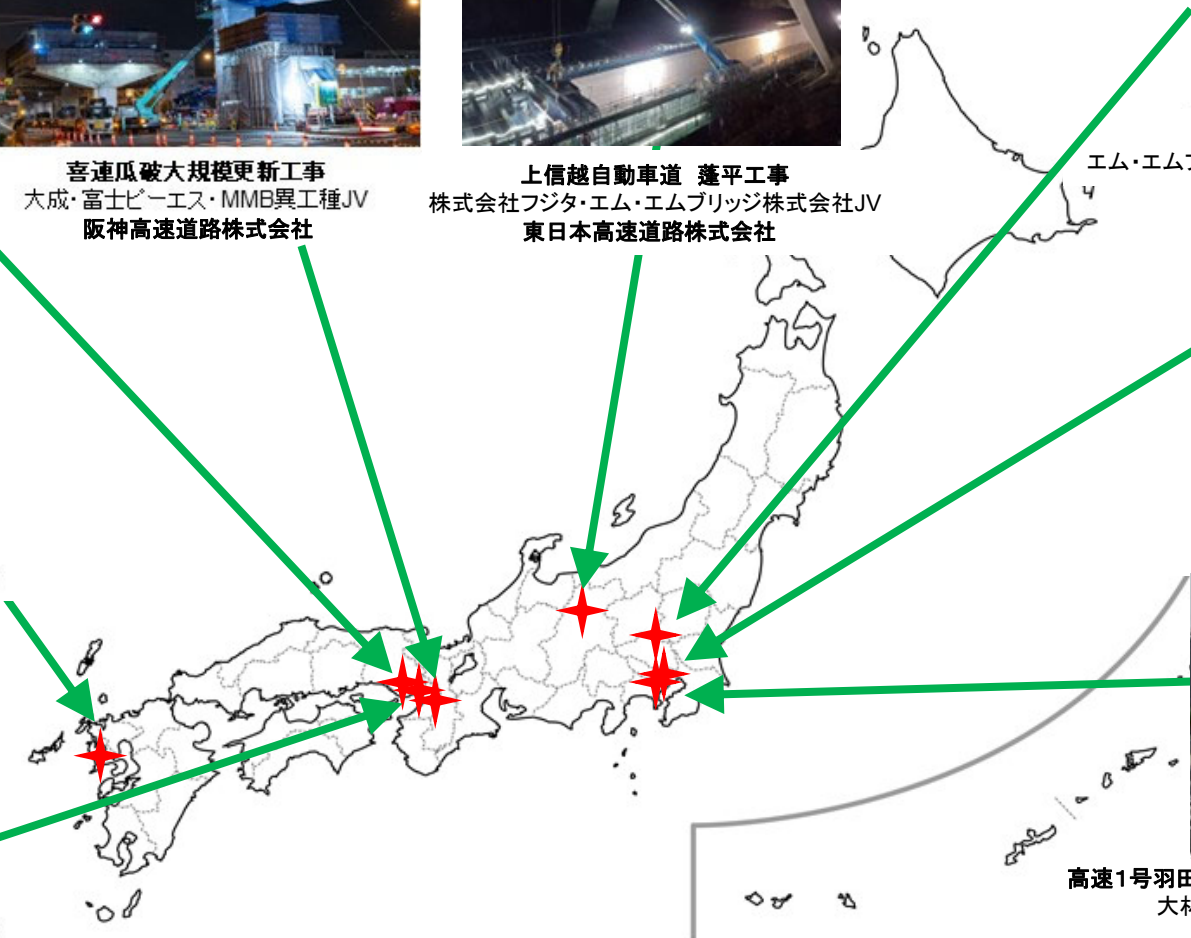
東北自動車道 利根川橋耐震補強工事  
エム・エムブリッジ株式会社・鉄建建設株式会社JV  
東日本高速道路株式会社



佐世保道路 佐世保高架橋(拡幅)工事  
エム・エムブリッジ・瀬上工業・富士ビー・エスJV  
西日本高速道路株式会社



神戸空港連絡橋上部工(拡幅部)製作・架設工事  
MMB・宍神建設JV  
神戸市



(改)都心環状線(日本橋区間)高速6号  
向島線接続地区上部・橋脚・基礎工事  
JFE・MMB・鹿島・東亜異工種JV  
首都高速道路株式会社

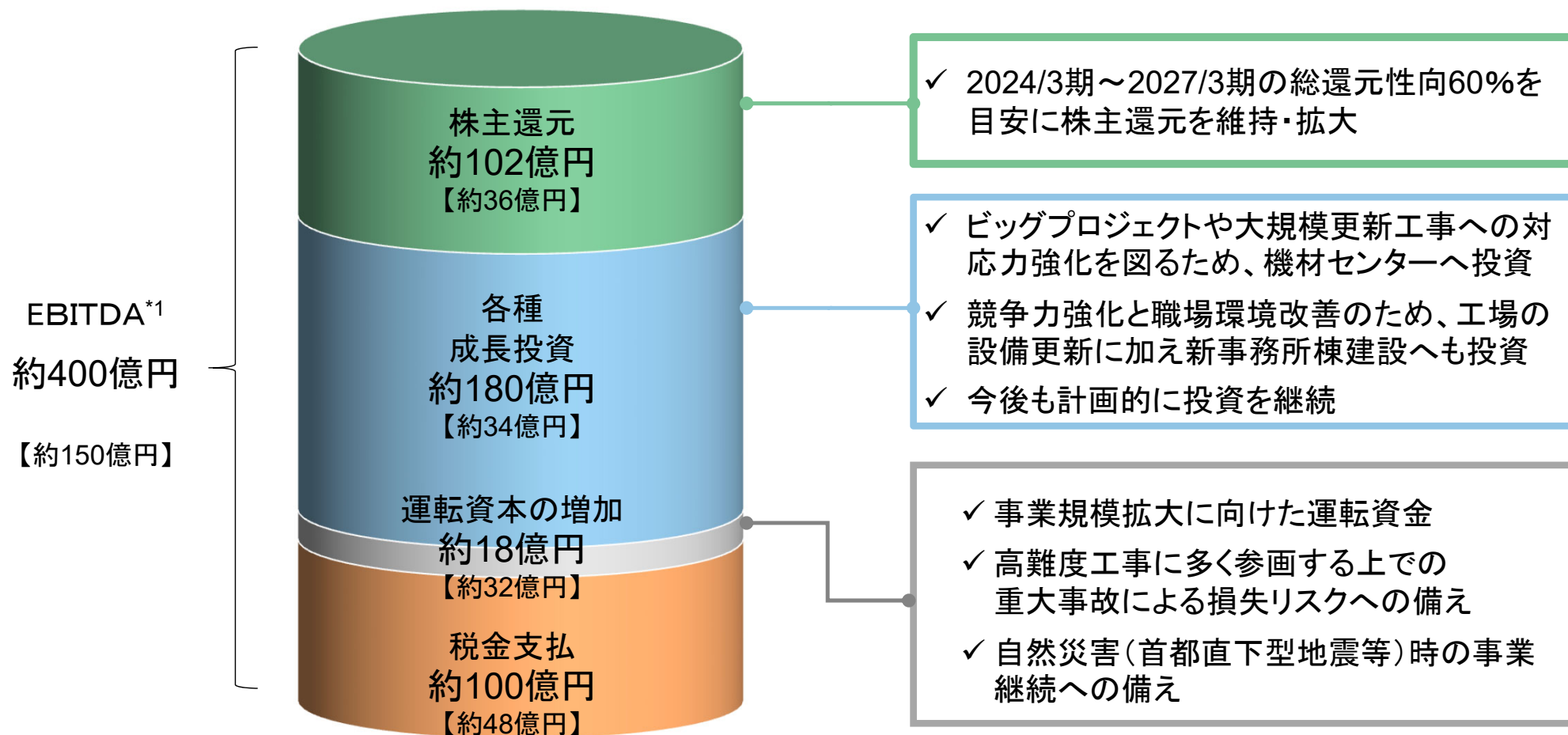


高速1号羽田線(東品川棧橋・鮫洲埋立部)更新工事  
大林・清水・三井住友・東亜・青木あすなる・  
川田・東骨・MMB・宮地異工種JV  
首都高速道路株式会社

# 資本戦略

一定の資本拡充および成長投資も確保の上で、株主還元の維持・拡大を図る

2023/3期～2027/3期合計



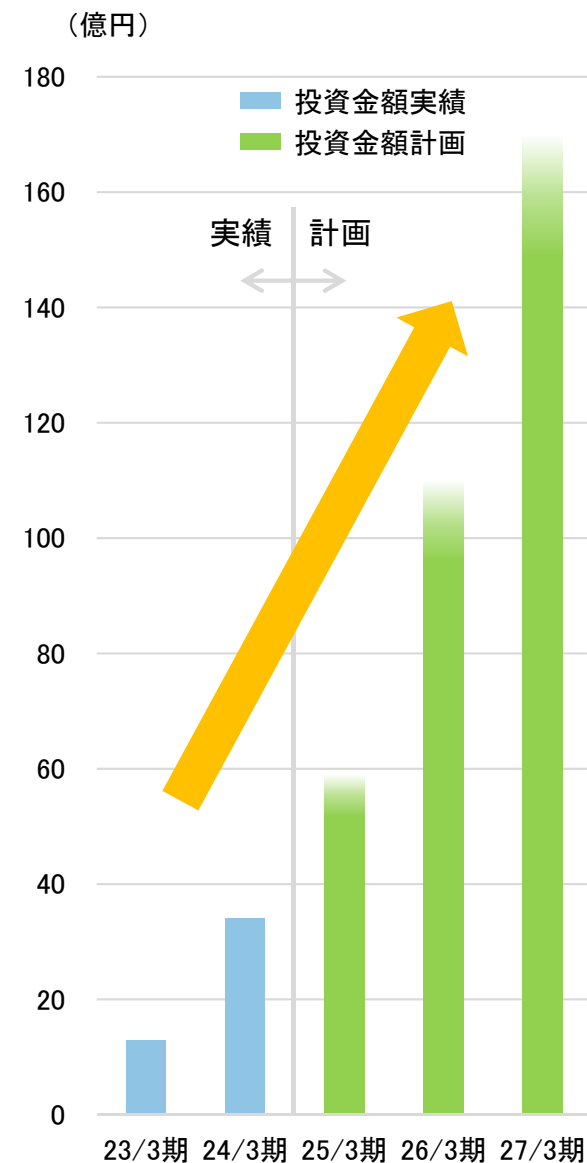
\*1 Earnings Before Interest Taxes Depreciation and Amortization

(注) 【 】内は2023/3期～2024/3期の実績累計

# 投資戦略

		5年間の投資見込み金額	実績累計	投資の内容
生産能力の効率化・適正化	ヤードの整備・スペース効率化	1.5億円	0.2億円	塗装工場再構築は順調に進捗中
	塗装工場再構築	13.0億円	9.3億円	仮組ヤードへの50t吊大型門型クレーン導入完了
	工場設備の更新・補修・建屋耐震補強	25.0億円	7.2億円	その他の設備についても順次更新予定
	新事務所棟建設	60.0億円	—	2027年春の移転に向け、基本設計検討中
	機材センターの改修	10.5億円	6.9億円	保管倉庫の建替え完了し、新事務棟建築作業中
	機材センターの設備更新	17.0億円	6.8億円	ヤード内門型クレーンなどの設備を順次更新中
	栗橋機材センター保管ヤード見直しの追加	10.5億円	—	代替地となる保管ヤード候補地を選定中
	兵庫機材センターの移転拡張の追加	12.5億円	0.1億円	用地取得・整備に向けて準備対応中
カーボンニュートラル対応	2050年のカーボンニュートラルの実現に向けた具体的な施策の実施の追加	9.0億円	0.1億円	機材センターに電動フォークリフトを導入済
事業ポートフォリオの拡大・適正化	新規事業開発	11.0億円	3.5億円	10件/年の新技術開発に取組み中
総合エンジニアリングの機能強化	技術開発			DXを活用した業務効率化に向けて鋭意対応中
	M&A	10～30億円規模を想定	—	持続的成長に資する案件があれば前向きに取組むべく、準備対応中
成長投資合計		180～200億円規模を想定		

## 投資累計金額の推移



# 配当政策

成長戦略の実行により、親会社株主に帰属する当期純利益を確保

(百万円)

	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期		27/3期
	実績	実績	実績	中計目標	業績予想	中計目標
売上高	58,002	60,279	69,365	70,000	73,000	75,000
営業利益	5,810	5,128	7,904	7,000	9,500	7,500
経常利益	5,992	5,374	7,908	7,000	9,600	7,500
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,406	3,077	4,354	3,800	4,400	4,000
1株当たり年間配当金(円) *1	70	70	192 (普通配当 182 記念配当 10)	(170) <sup>*2</sup>	195	(180) <sup>*2</sup>

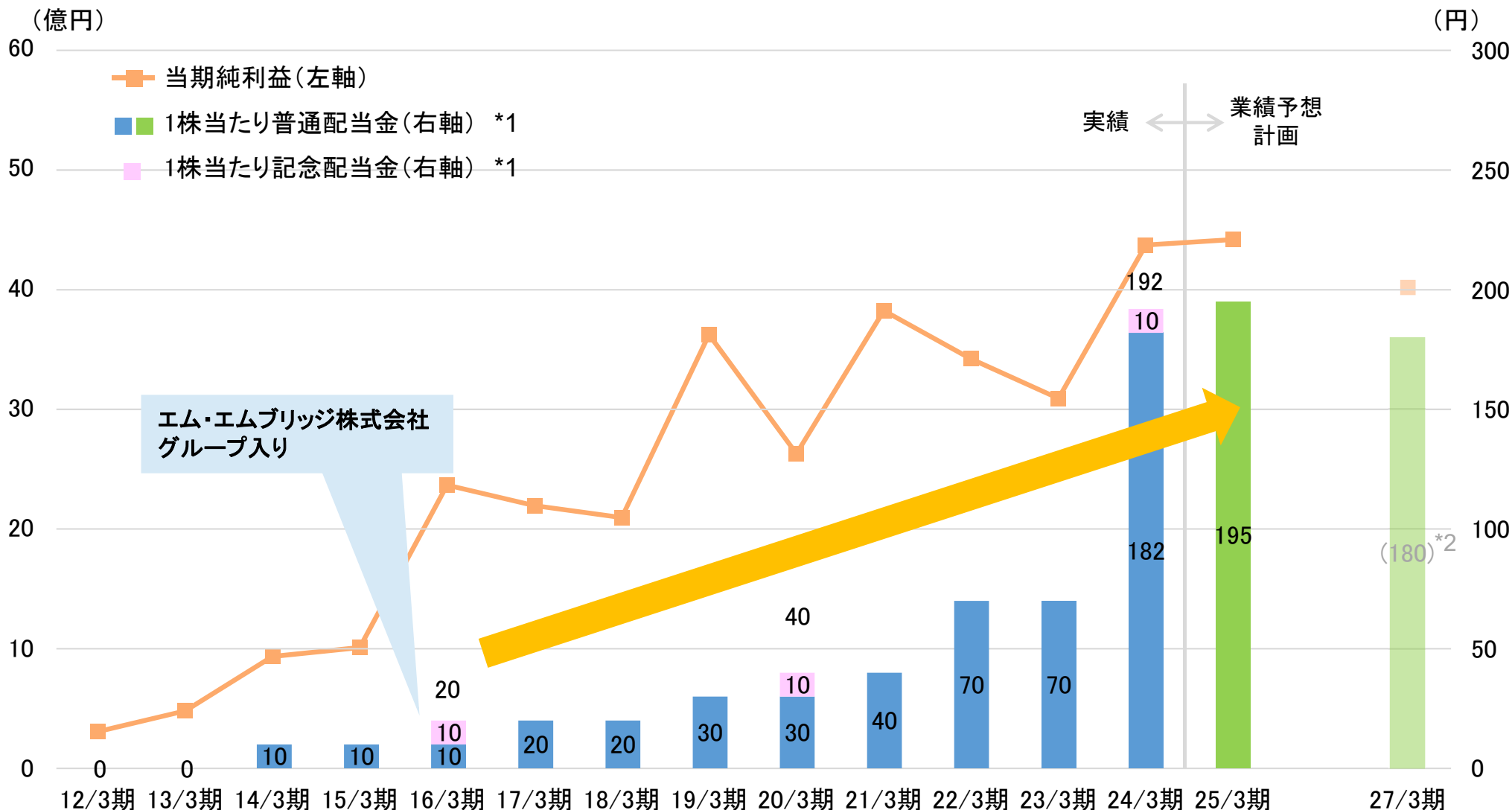
好業績時には機動的な株主還元を実施するなど、  
資本効率にも十分留意して自己資本の水準を適切にコントロール

\*1 2023年10月1日に普通株式1株につき2株の割合をもって分割、1株当たり年間配当金は分割考慮後で表示  
Copyright© 2024 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

\*2 2023年8月9日適時開示内容を踏まえて修正

# 当期純利益と配当金の実績および計画

## 成長戦略の実行および継続的な配当の維持・拡大へ

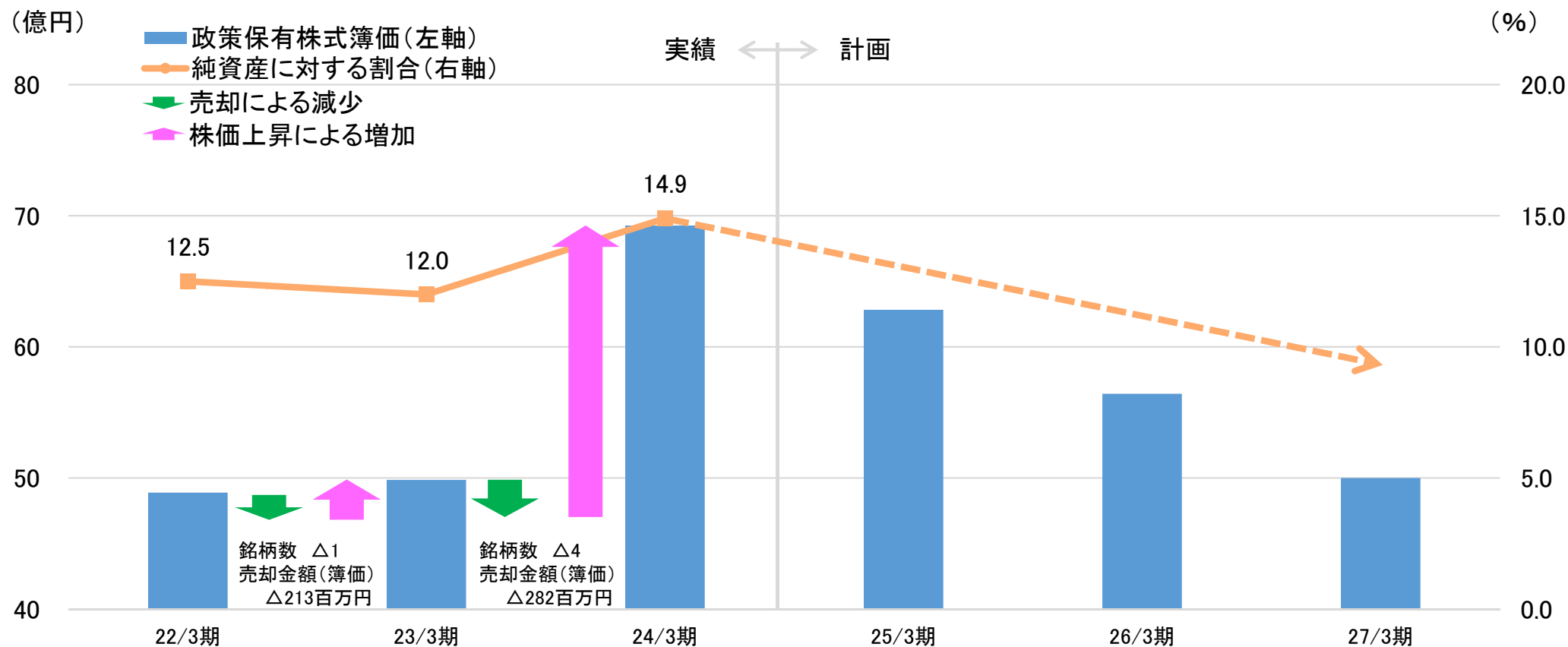


\*1 2023年10月1日に普通株式1株につき2株の割合をもって分割、1株当たり配当金は分割考慮後で表示

\*2 2023年8月9日適時開示内容を踏まえて修正

# 政策保有株式の縮減方針

中計期間中に政策保有株式簿価の純資産に対する割合を10%以下まで縮減へ



- ◆ 24/3期2Qは簿価2.8億円相当の政策保有株式売却
- ◆ 株価上昇により簿価は上昇しているが、売却を継続して純資産に対する割合を縮減へ



# 社会的課題への取組み(1)

## グループとしてのSDGsへの取組み

### 自然災害に鋼構造スペシャリスト集団として対応

- ◆ 阪神淡路大震災・六甲道駅  
-2年掛かるとされた復旧作業を74日で実現
- ◆ 東日本大震災・東北新幹線  
-新幹線高架橋の横ずれ3か月で復旧
- ◆ 熊本地震・熊本城飯田丸五階櫓倒壊防止装備  
-アーム式支保工で倒壊防止

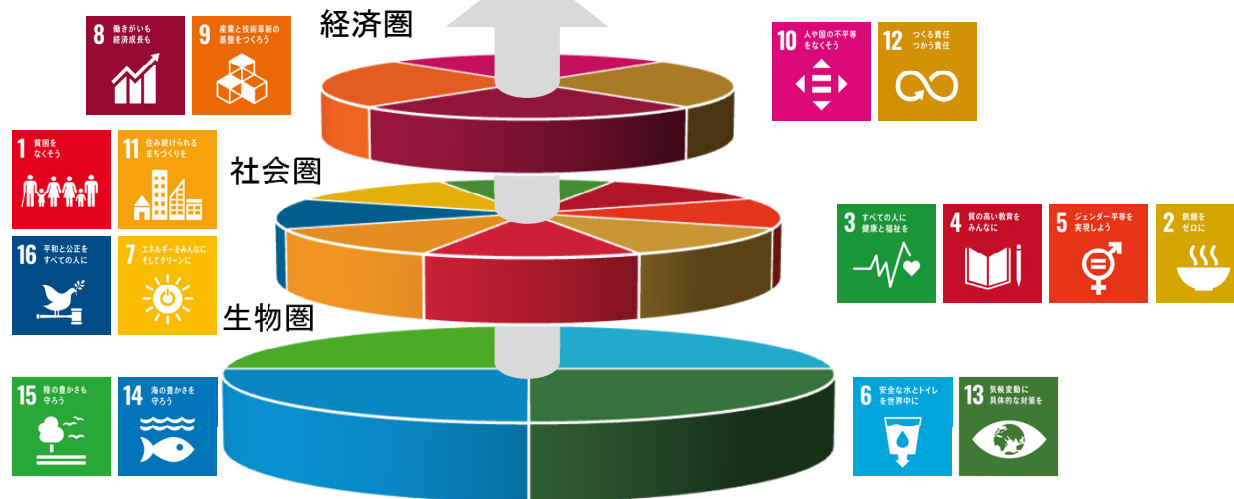
### 人材育成・ダイバーシティ推進

- ◆ 女性活躍の推進  
-溶接工・設計職などで女性社員活躍を積極支援  
-ライン部長など女性社員の幹部積極登用
- ◆ 社員の働きやすい職場づくり  
-介護等による一時退職制度と、職場復帰を促す支援制度を運用  
(退職前に準ずる職能評価で復帰可能)
- ◆ 社員の能力開発支援  
-博士号、修士の習得奨励のための大学院留学制度



### 環境への取組み

- ◆ 松本工場跡地にて太陽光発電  
-CO2削減量469,858kg/年
- ◆ 沿岸構造物技術を用いたサンゴ保全  
-電気防食によるサンゴ増殖技術を開発



### コーポレートガバナンス体制の整備

- ◆ 2021年6月 監査等委員会設置会社へ移行、指名・報酬委員会を設置
- ◆ 2022年6月以降、取締役を7名に減らし、過半数の4名を社外取締役とする体制へ移行

### 株主・投資家との対話強化

- ◆ 2021年4月 IR室(現サステナブル経営推進室)を設置
- ◆ 決算説明会を含め、株主・投資家との対話機会を拡充
- ◆ 投資家との個別対話機会を拡充

## 社会的課題への取り組み(2)

### 気候変動に対する宮地エンジニアリンググループとしての取り組み

- ◆当社グループは気候変動を重要な経営課題の一つとして認識し、2023年度より当社グループの事業活動に伴うGHG(CO2換算)排出量の開示を開始しております。当社グループは開示の質・量の高度化を進めており、2023年度に開示したScope1,2(2021年度実績)に加え、2024年度からは直接・間接排出以外のScope3(2022年度実績)の開示も行います。
- ◆組織的対応としては、2022年度に実施したコンプライアンス・リスク管理基本規程の改定に加え、2023年度には環境対策を含むマテリアリティの設定を行うとともに、代表取締役を委員長とするサステナビリティ推進委員会を設置し、気候変動問題に対する取締役会レベルでの関与を更に強化しました。また2024年度より、当社グループに対する環境影響を測るシナリオ分析、リスク・機会分析も開始します。(別途ホームページ等で公表)
- ◆今後も、当社グループはサステナビリティ推進委員会における活発な議論を通じ、取締役会レベルでもカーボンニュートラル方針の深化・強化を進めることで、ガバナンスを強化して全社一丸となり、気候変動課題への取り組みをより一層進めます。

### GHG(CO2換算)排出に関する開示・目標

- ◆開示項目：グループの事業活動に伴う自社のGHG(CO2換算)排出量(2022年度実績)
  - Scope 1: 770.2トン(前年比増加+34%)※昨年度Scope3と想定していた項目を見直したために排出量が増加
  - Scope 2: 2,329.8トン(前年比減小-6%)
  - Scope 3: 184,290.5トン(2024年度より開示)
- ◆排出削減目標  
直接排出(Scope1)および間接排出(Scope2)につきましては、2050年のカーボンニュートラル実現に向け、2024年度より計画的に検討を進めてまいります。

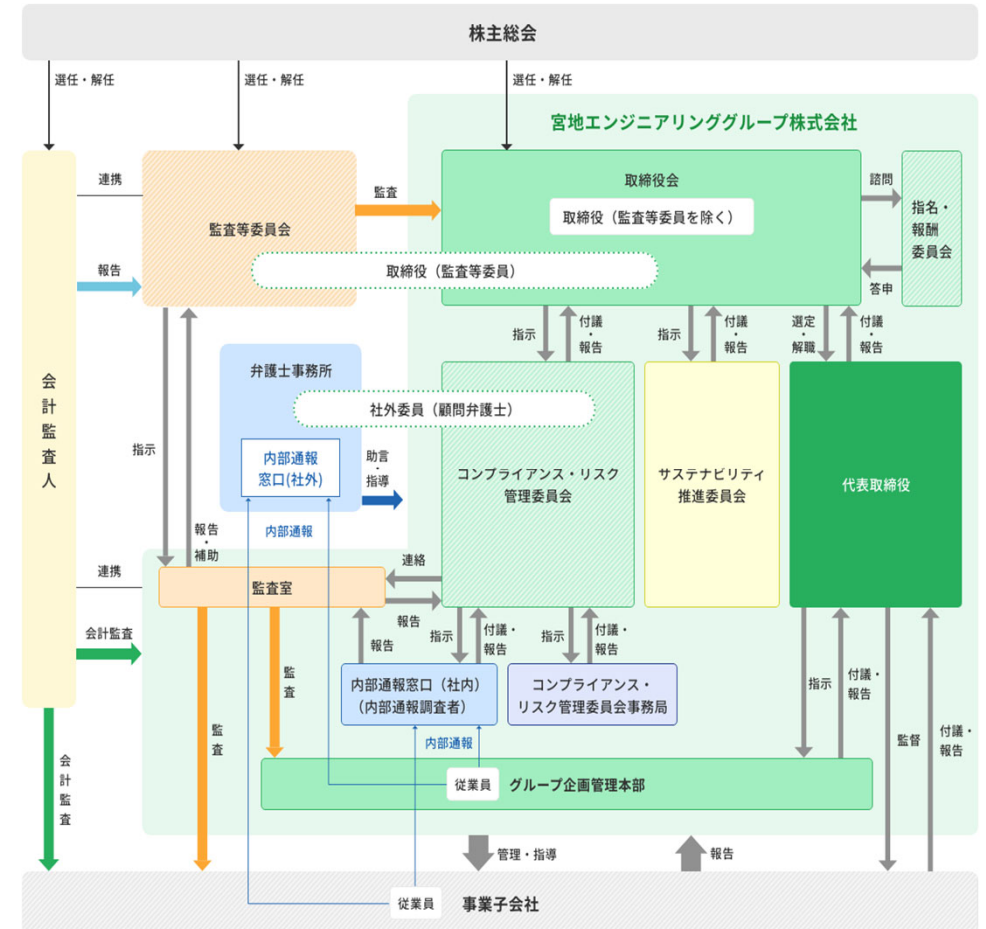
# 社会的課題への取組み(3)

## 気候変動に関するシナリオ分析に基づくリスク・機会への考察

- ◆2024年度より、当社グループに影響を与える気候変動関連のシナリオ分析を行い、環境影響から生じるリスク・機会の考察を開始します。想定されるシナリオとしては、国連気候変動政府間パネル(IPCC)の設定する1.5℃シナリオ(温度上昇を積極的に抑制)と4℃シナリオ(現状の延長線)を採択しております。(別途ホームページ等で公表予定)
- ◆当社グループ全体としてリスクサイドのみならず、機会サイドについても将来の事業の進展に資するものと捉え、今後も積極的に分析の高度化を図ってまいります。

## グループ全体のガバナンス強化

- ◆2022年度のコンプライアンス・リスク管理規程の改正に加え、2023年度は取締役会にて気候変動対策を含んだマテリアリティの策定・設定を行いました。
- ◆当社代表取締役を委員長、取締役を副委員長とするサステナビリティ推進委員会の下に、気候変動対策・カーボンニュートラル検討分科会を設置し、気候変動対策に関する積極的な議論を行い、2050年のカーボンニュートラルに向けた対策を推進します。
- ◆取締役会への気候変動課題の報告等をより積極的に推進し、同時に経営陣の関与を更に高めるためのガバナンス強化を進めております。(右図体制図参照)



# 社会的課題への取組み(4)

## 宮地エンジニアリンググループ 創業115周年・設立20周年記念式典開催・記念誌発刊



- ◆ 中長期的な目標に向けて成長を続けていくためにも、改めてこれまでの軌跡を振り返るとともに、仕事に誇りと情熱を持って、他社よりも一歩先を行く会社とするために、多くのステークホルダーの皆様と「共に歩み」「共に成長する」企業として社会貢献していくことの大切さと、更なる飛躍を実現するための強い思いを共有するための場とするために、グループ全社員を集めて記念式典を開催
- ◆ 併せて、グループの成長と苦難の歴史を20個のエピソードで振り返る記念誌を発刊



# 株主・投資家との対話の実施状況等について

## 2023年度(2023年4月1日～2024年3月31日)の取組み

対話を行った株主・投資家の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 国内機関投資家等 SR面談20回、IR面談14回、決算説明会2回、工場見学会5回</li> <li>◆ 海外機関投資家等 SR面談3回、IR面談16回</li> </ul>
株主・投資家との対話の主な対応者	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 代表取締役社長 青田 重利</li> <li>◆ 執行役員IR室長 瀬戸井 裕</li> <li>◆ 執行役員企画・管理部長 遠藤 彰信</li> </ul> <p>(注)IR室は、2024年4月1日付けでサステナブル経営推進室に改称しております。</p>

## 株主への説明で理解を得られた事項

- ① 中期経営計画(2022～2026年度)における事業戦略や成長投資計画等
- ② 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応(2023年8月9日開示)に基づく資本政策の考え方と実施状況
- ③ 統合報告書2023(2023年5月22日公表)に基づく、過去の歴史を踏まえた価値創造プロセスとそれを実現する基盤(経営資源の質と量)

## 株主との対話で得られた事項や取り入れた事項(前年度までの対話によるものも含む。)

- ① 統合報告書2023の発刊(2023年5月)
- ② 英文開示の開始(2023年5月)
- ③ 女性取締役の登用(2023年6月から7名中1名)
- ④ 総還元性向の見直し(2024年3月期より中計期間中の還元性向の目安を30%から60%へ)
- ⑤ 株式分割の実施(2023年10月実施)
- ⑥ 政策保有株式縮減の加速(2024年3月期に4銘柄縮減)
- ⑦ 役員報酬の開示(2022年3月期より子会社から役員として受けた報酬等の総額を記載)
- ⑧ 定時株主総会招集通知に記載する取締役のスキル・マトリックスの開示開始(2023年3月期より実施)および内容充実(2024年3月期より実施予定)
- ⑨ 株主総会における電子投票制度および議決権電子行使プラットフォーム採用(2024年3月期定時株主総会より実施予定)

#### ◆ 将来見通しに関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

#### ◆ IRに関するお問合せ先

宮地エンジニアリンググループ株式会社  
グループ企画管理本部 佐々木、平岡、遠藤、瀬戸井  
〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町9番19号  
TEL 03-5649-0111  
E-mail [meg.IR@miyaji-eng.co.jp](mailto:meg.IR@miyaji-eng.co.jp)

# Appendix 1 – 資本コストや株価を意識した経営の 実現に向けた対応について



# 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応(1)



## 現状評価(2023/8/9開示時点)

2023年3月期ROE 8.9%

⇒中計目標値の10%を下回ったが、株主資本コストと同等以上の資本収益性を達成できている

2023年3月末PBR 0.72倍

⇒継続して1倍を下回っており、当社グループの事業戦略、必要な自己資本の水準、株主還元の方針などに関して、十分な理解が得られていない

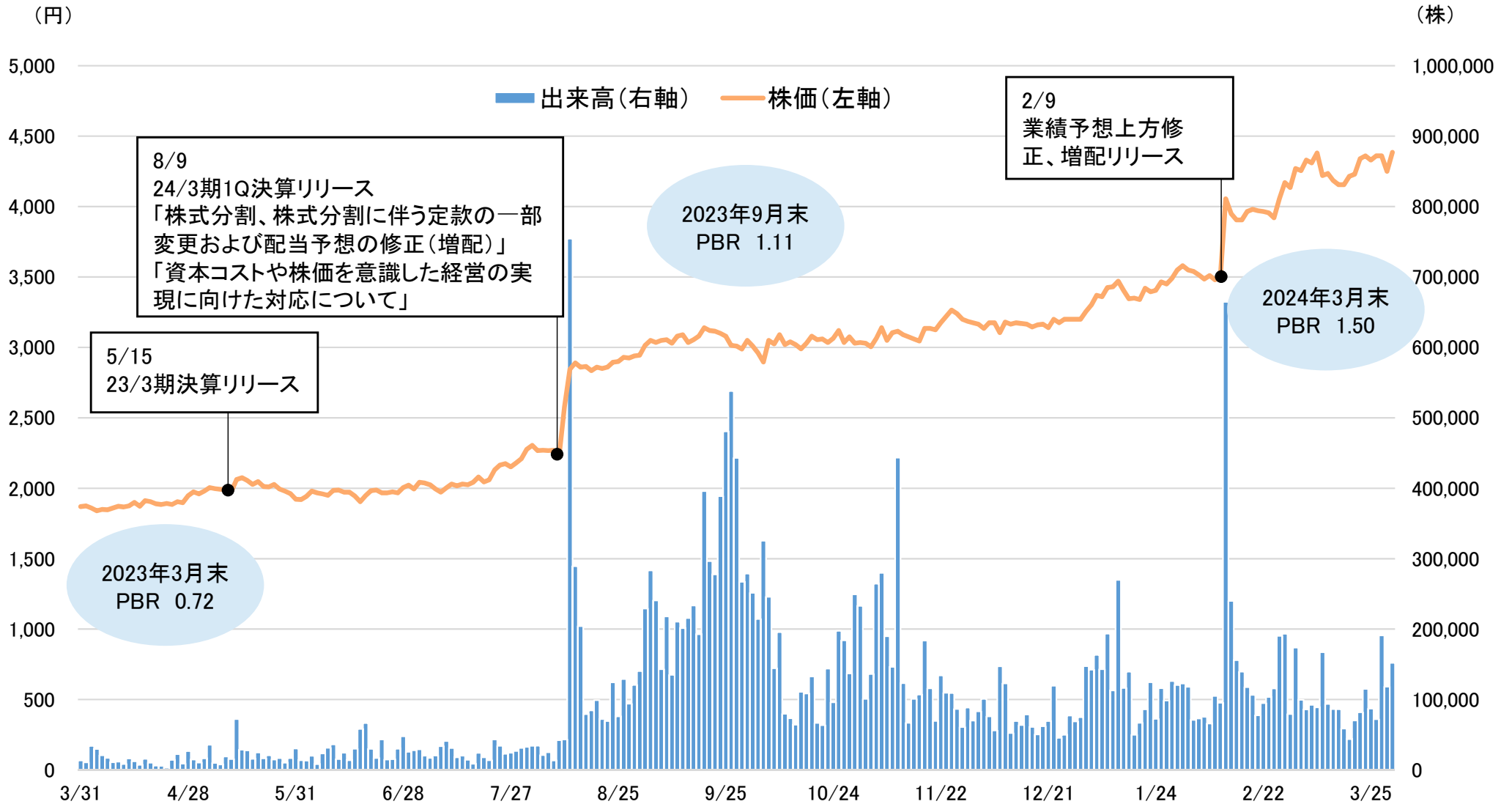
	(百万円)					
	19/3期	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期	24/3期
売上高	52,062	63,841	55,268	58,002	60,279	69,365
営業利益	4,350	5,241	5,501	5,810	5,127	7,904
親会社株主に帰属する当期純利益	3,608	2,616	3,808	3,406	3,077	4,354
自己資本比率	43.8%	43.8%	49.6%	54.0%	56.3%	53.5%
ROE	15.8%	10.4%	13.5%	10.7%	8.9%	11.6%
1株当たり純資産(円) *1	1,790.37	1,922.04	2,214.87	2,452.49	2,608.98	2,916.70
期末株価(円) *1	935.0	810.0	1,184.5	1,730.0	1,870.0	4,385.0
PBR(倍)	0.52	0.42	0.53	0.71	0.72	1.50

\*1 2023年10月1日に普通株式1株につき2株の割合をもって分割、1株当たり純資産・期末株価は分割考慮後に修正



# 株価動向

## 2023年度の株価・出来高推移



(注)2023年10月1日に普通株式1株につき2株の割合をもって分割、株価・出来高は分割考慮後に修正

## 株価動向

	2023年3月末		2024年3月末
▪ 株価	: 1,870円	→	4,385円
	(株式分割考慮後に修正)		
▪ PBR	: 0.72倍	→	1.50倍
▪ 時価総額	: 259億円	→	606億円

# 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応(2)



## 今後の取組み

7つの取組みを通じて、持続的成長と中長期的な企業価値の向上を図り、ROE10%を目標とし、PBR1倍の実現を目指します

(1) 中期経営計画(2022~2026年度)の達成

- ◆ 新設橋梁ビッグプロジェクト、高速道路大規模更新工事、民間の高難度工事などに経営資源をバランス良く投入する計画を着実に推進
- ◆ 工場生産や現場施工の効率化・適正化のための投資や、新規事業開発と総合エンジニアリング機能強化のために中期経営計画の5年間で総額180~200億円の投資計画を策定し、実施中



第二京阪道路 門真高架橋東(鋼上部工)設計・工事

(2) 積極的なIR活動の実施

- ◆ 決算説明会、1on1ミーティング、見学会などを実施し、投資家の皆様から当社グループへの理解を深めていただくよう努める
- ◆ 英文サイトを開設し、株主総会招集通知や決算短信をはじめとした適時開示資料の英文開示を実施
- ◆ 2023年3月期から作成を開始した統合報告書は、毎年内容を更新



2023/10/16 日本経済新聞広告

# 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応(3)



## 今後の取組み

(3) 自己株式取得について	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 政策保有株式縮減による放出など特殊な事情がある場合には、自己株式取得を検討</li> </ul>
(4) 株式分割の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 2023年10月1日を効力発生日として当社普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を実施</li> </ul>
(5) 配当政策の見直し(資本効率を意識した機動的な株主還元の実施)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 中期経営計画の目標であるROE10%の達成に向けて、資本効率にも十分留意して自己資本の水準を適切にコントロールする。持続的成長のための成長投資、一定の資本拡充など、バランスの良い資本政策を進めることを基本とする</li> <li>◆ 事業特性上、事故リスク、自然災害リスクを踏まえ、持続的成長を担保するために必要な自己資本は月商の7カ月分(年間売上高の60%)程度であると考え、目標とする自己資本比率を55%とする</li> <li>◆ 総還元性向60%を目安として業績に応じた機動的な株主還元を実施し、自己資本の水準を適切にコントロールする</li> <li>◆ 総還元性向の目安60%の考えに基づき、2024年3月期の1株当たり配当予想を2023年5月15日公表の配当性向35%相当額から、60%相当額に増額</li> </ul>

# 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応(4) 宮地エンジニアリンググループ株式会社

## 今後の取組み

<p>(6) 当社設立20周年記念クオカードの進呈</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 当社は2023年9月をもって20周年の節目を迎え、株主の皆様の日頃のご支援にお応えするため、記念配当に加え、2023年9月30日の最終の株主名簿に記録された単元株をご所有の株主の皆様に、当社設立20周年記念クオカードを進呈</li> </ul>	 <p>クオカードデザイン</p>
<p>(7) 政策保有株式の縮減</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 保有意義が不十分であると判断した政策保有株式については保有先企業との対話などを踏まえたうえで縮減する。中期経営計画(2022~2026年度)の期間中の早期に、連結純資産に対する政策保有株式の帳簿価額の割合を10%以下とする方針</li> </ul>	

# Appendix 2 - 会社概要



## <宮地エンジニアリンググループの経営理念>

橋梁、建築、沿岸構造物等の  
社会インフラの建設、維持・補修の事業を通じ、  
豊かな国土と明るい社会創りに貢献する

## 宮地エンジニアリンググループについて(2/4)

当社グループの事業会社である宮地エンジニアリングとエム・エムブリッジは、国土交通省、高速道路会社等の官公庁から発注される橋梁の製作・施工を主力事業としております



発注者の発注枠内で経営していく受注産業であり、

その発注量は道路インフラ投資への官公庁の予算に左右されます

公共事業の受注は入札で決まるため、計画的に受注をする事が出来ない



受注を平準化して計画生産を行う事が難しく、損益に山谷が発生することがあります



## 宮地エンジニアリンググループについて(3/4)

◆ 主力の新設橋梁事業では、

高度成長期の橋梁技術発展に大きく貢献した首都高速の江戸橋ジャンクションに始まり、本州と九州を結ぶ関門大橋や明石海峡大橋をはじめとする多くの本州四国連絡橋、東日本大震災復興のシンボルである気仙沼湾横断橋、東京湾でも特に夜景が美しい東京ゲートブリッジ・レインボーブリッジ・横浜ベイブリッジ等、名だたる長大橋の設計・施工技術の実績があります

◆ 新幹線や鉄道上に架かる難易度の高い橋梁建設工事では、

長年にわたり培ってきた高い技術力と専門の職人集団の技能を活かした現場安全施工で高い評価と絶大なる信頼をいただいております

◆ 「特殊建築物の施工」および「沿岸構造物の設計・製作技術」は実績に基づいた

高い技術力が要求され、当社グループ以外で対応できる会社は限定されています

## 宮地エンジニアリンググループについて(4/4)

### ◆ 今後も継続して

7兆円規模と言われている高速道路のリニューアルプロジェクト、

事業規模5,000億円の大阪湾岸道路西伸部の長大橋梁を始め、

第二関門大橋(下関北九州道路)などの高難度のビッグプロジェクト、

更に、首都圏のターミナル駅の再開発事業、連続立体交差事業や高架化、

特殊建築物の施工および大規模沿岸構造物などが計画されており、

当社グループにとって更なる飛躍への絶好の事業環境と捉えております




# 会社概要

本店所在地	東京都中央区日本橋富沢町9番19号
代表者	代表取締役社長 青田 重利
創業	1908年9月
資本金	30億円
連結売上高	693億円 (2024/3期)



宮地エンジニアリンググループ株式会社

100%出資(連結)



宮地エンジニアリング株式会社 (MEC)

橋梁・鉄骨その他鋼構造物の設計、製作、架設、据付、維持補修、  
プレストレストコンクリートの設計、製作並びに土木工事の施工、  
工事管理、鉄骨・鉄塔・大空間構造物組立

51%出資(連結)



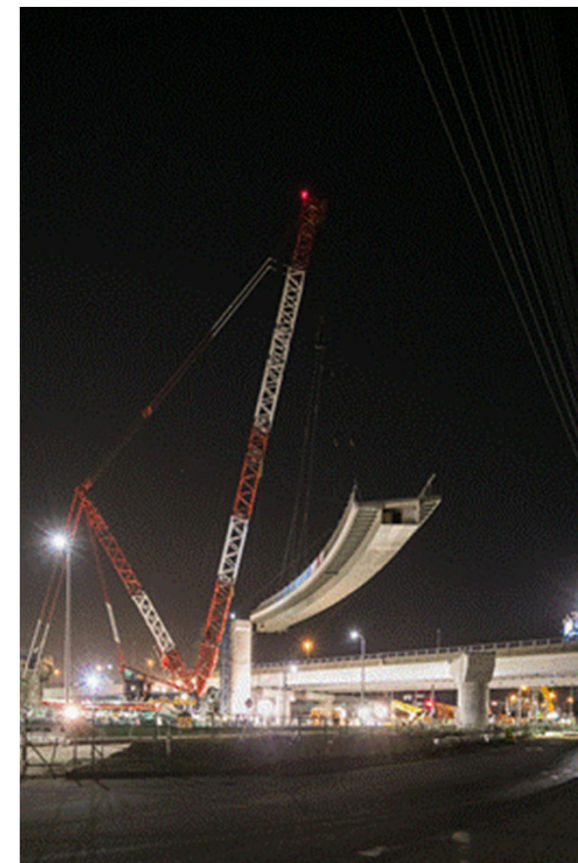
エム・エムブリッジ株式会社 (MMB)

橋梁、沿岸構造物等の設計、製造、据付、販売 および修理

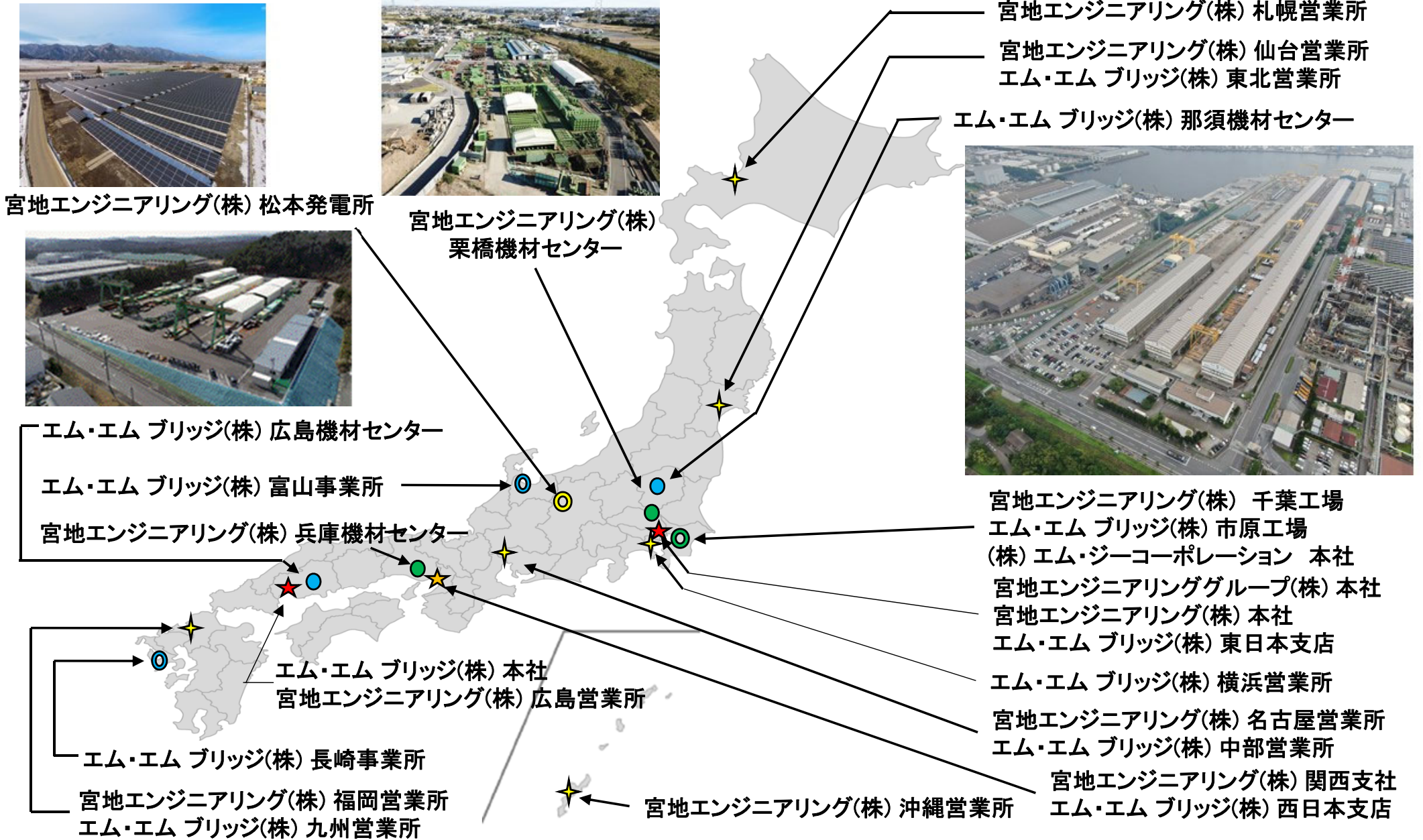
100%出資(非連結)

株式会社エム・ジー・コーポレーション

鋼構造物の設計・製作・架設、ボルト・溶接材料等の販売、  
人材派遣業務、他



# 事業所および活動拠点



# 主なプロジェクト実績(長大橋・道路橋)

■ 過去から脈々と続く高難度のプロジェクト経験により高い技術を蓄積

～1970年代



関門橋(1,068m)

逐次剛結の先端技術で架設

土木学会「田中賞」

1980～90年代



明石海峡大橋(3,991m)

当時、世界一の吊り橋

土木学会「田中賞」

2000年代以降



東京ゲートブリッジ(2,618m)

日本2位のトラス橋

土木学会「田中賞」



首都高速江戸橋JCT

首都高の最難関工事



港大橋

日本一のトラス橋

土木学会「田中賞」



多々羅大橋(1,480m)

日本一の斜張橋

土木学会「田中賞」



有明筑後川大橋

日本初の橋梁形式

土木学会「田中賞」



気仙沼湾横断橋(1,344m)

東日本大震災復興の象徴

土木学会「田中賞」

# 主なプロジェクト実績 (鉄道関連・大空間・特殊建築物・沿岸構造物)



- 高難度の施工技術を要する鉄道橋建設に数多く参画
- 大空間・特殊建築物においても、東京タワーをはじめ多くのプロジェクト経験を有しノウハウを蓄積

～1970年代

1980～90年代

2000年代以降

橋梁 (鉄道関連)



東海道新幹線江川橋梁



東海道新幹線箕輪架道橋



東海道新幹線50K900付近さがみ縦貫道路16号橋

大空間・特殊建築物



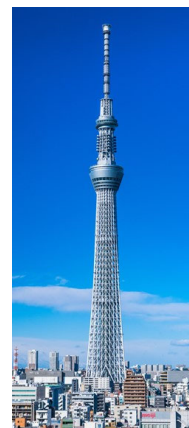
東京タワー(333m)



神戸ポートタワー(108m)



ナゴヤドーム



東京スカイツリー (634m)



札幌ドーム



東京アクアティクスセンター

沿岸構造物



南本牧鋼製ケーソン



東京港海の森トンネル沈埋函

# 当社グループの強み

## 大規模案件・高難度案件への参画を可能とさせる業界屈指の総合力

設計・製作

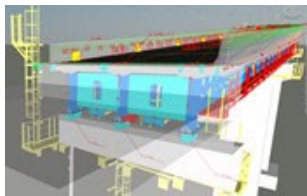
計画・架設

数多くのプロジェクト実績に裏打ちされた確固たる技術力

大規模プロジェクトに投入可能な人的リソース

経営資源を質・量共に  
揃える当社グループ  
だからこそ持ち得る強み

業界トップクラスの詳細設計力および技術開発力  
ICT関連会社と協力して、Click3D、CIM-GIRDER、CIM-SLABの3種類のCIMシステム等を開発



戦略・特殊機材の保有

業界屈指の手延べ機保有量  
日本一のアーチ橋を架設した  
ケーブルクレーン設備

機材を保有していること  
だけでなく  
扱える人材の多さと  
技術の高さが当社の強み

高技能集団との連携

高度な技術力を有する  
特殊職集団との連携は  
事業成立に必要不可欠

例) ケーブルクレーン



急峻な山間部等で通常クレーンの侵入が困難な場所で使用



職人の外部ネットワークにより  
高度な工事に対応するリソースを確保

自社工場保有が可能とさせる製作能力



海上長大橋の大ブロック製作対応も可能  
業界有数の生産能力を保有

# 当社が建設に参加した巨大構造物 I

## 本州四国連絡橋



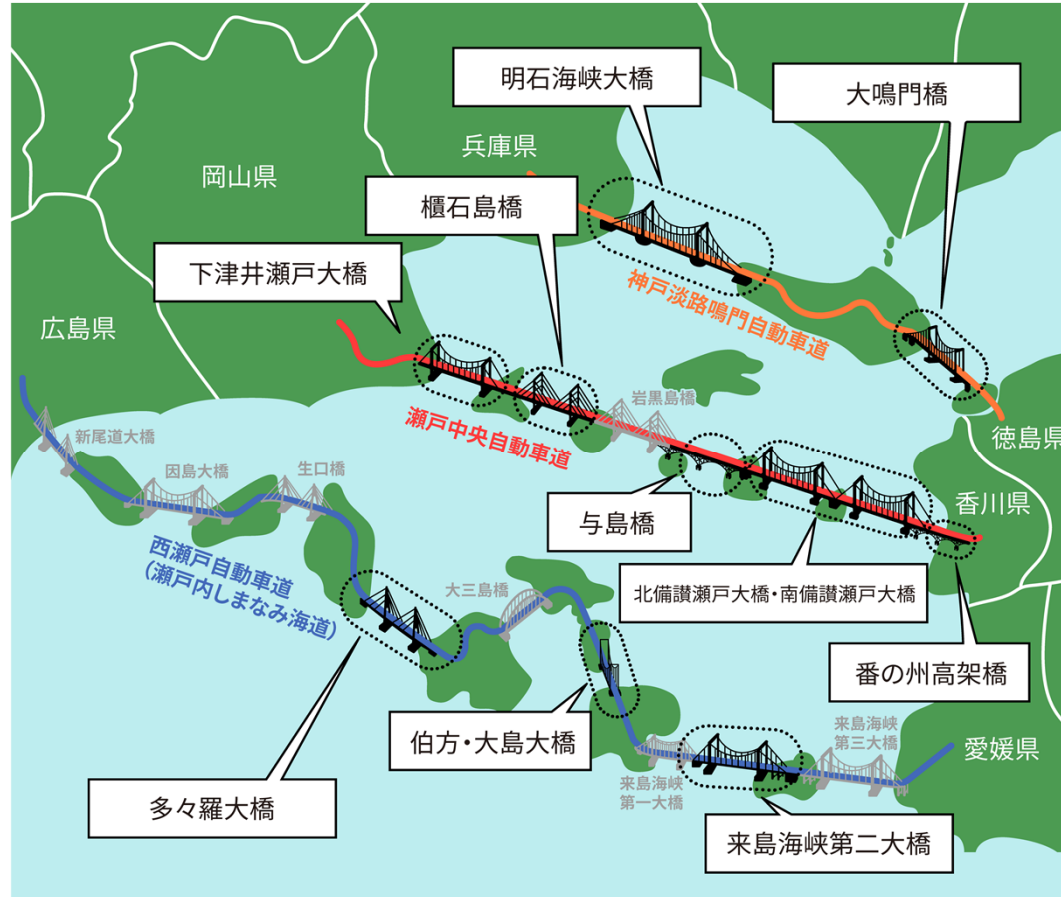
下津井瀬戸大橋



多々羅大橋



来島海峡第二大橋



明石海峡大橋



大鳴門橋



北備讃瀬戸大橋・南備讃瀬戸大橋



# 当社が建設に参加した巨大構造物Ⅱ

## タワー



東京スカイツリー



東京タワー



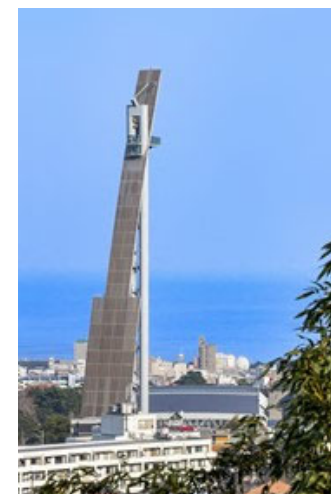
福岡タワー



水戸芸術館シンボルタワー



神戸ポートタワー



大分グローバルタワー

# 当社が建設に参加した巨大構造物Ⅲ

## ドーム等



エスコンフィールドHOKKAIDO



東京アクアティクスセンター



福岡PayPayドーム



レゾナックドーム大分



キューアンドエースタジアムみやぎ



バンテリンドーム ナゴヤ



大館樹海ドーム



札幌ドーム



日産スタジアム